

# Arts Commission Yokohama Annual Report 2009

アーツコミッション・ヨコハマ 平成 21 年度 事業報告書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ



Arts Commission・Yokohama

## 1. 事業趣旨

横浜市の創造都市政策では、人々が創造性を発揮する社会の実現による都市の魅力を発信するために“創造の担い手”の集積を目指しています。アーティスト、クリエイター、NPO、市民、企業、教育機関など“創造の担い手”が活動しやすい環境作りを行うことで、この政策を推進します。

アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）は、“つなぐ、ふやす、アートの現場”を合言葉に、文化芸術によるまちづくりに寄与するあらゆる事業者（創造の担い手）に対し、中間支援事業を行ないます。

## 2. 平成 21 年度事業方針

- 〔1〕 創造の担い手支援
- 〔2〕 創造産業集積のための仕組みづくり
- 〔3〕 将来の担い手の支援
- 〔4〕 海外の都市・拠点との連携
- 〔5〕 創造都市プロモーション
- 〔6〕 平成 22 年度以降の新体制に向けた提言づくり

## 3. 事業目標の達成率

アーティスト、クリエイターの立地促進助成数

（助成事業名称「クリエイター・アーティストのための事務所開設支援助成数」）

平成 20 年度… 14 件、 平成 21 年度… 17 件 現時点の総計 51 件

\* 横浜市の中期計画の事業「創造境界の形成」から、アーティスト、クリエイターの立地促進助成数を目安としています。平成 22 年度までにクリエイター等立地促進助成制度の交付件数延べ 100 件を目標としています。平成 19 年度までは 20 件です。

## 4. 概況

開設 3 年目となる平成 21 年度から ACY は、活動拠点を ZAIM から YCC に移しました。今年度は移転の影響もあり、窓口での相談件数は大幅に減少しましたが、相談だけではなく、その後のコーディネート業務に結びつくような発展性のある情報が数多く寄せられました。また、YCC に移転したことの効果として、

1. 「相談＋助成情報提供＋会場提供＋広報協力」といった一連のサポートが可能となった。
2. 大学、企業、アート以外の NPO などが数多く利用する場であるために、異業種間のコラボレーションに繋がった。特に、アーティストと企業のマッチング機会が増加した。
3. 「創造都市プロモーション」は YCC のミッションでもあり、ACY と YCC の資源の有効活用で、これまでにないダイナミックなプロモーションを実現できた。

が上げられます。

助成制度は新たに「企業による創造活動促進助成」を横浜市から引継ぎました。その他の助成も申請件数は概ね増加し、情報が確実に流通していることが実感できます。しかしながら、申請件数の増加に助成金予算が追いつかないという現実的な問題も顕在化し、資金獲得が急務となっています。

国際交流レジデンス事業は、従来からの“急な坂スタジオ”“BankART1929”が主催する事業に加えて、新たにYCCを拠点にした北京市のアーティスト招聘、また韓国・仁川市への横浜のアーティストの派遣を開始しました。またこれまでの取組みを俯瞰できるレポートの作成にも現在取り組んでいます。

今後は平成 22 年度以降に予定されている「まちづくり・産業振興」部門の組織化を視野に入れ、ACYのミッションや事業方針を再検証していきます。また相談対応、情報提供から踏み出し、積極的に事業者間のマッチングを図っていけるように、一層のコーディネート能力の向上に努めていきます。

## 5. 事業実績

### 事業方針〔1〕：創造の担い手支援

#### (1) 相談・コーディネート

相談件数は減少しましたが、アーティストや NPO の間での認知度が高まったこともあり、開設当初に比べ、より具体的な相談や発展性のある見込める情報が入ってくるようになりました。このことは、事業者間のネットワークを作るコーディネート業務にも反映されています。これに加え、文化芸術以外の中間支援団体や行政とのネットワークも拡がり、文化芸術に関わるコミュニティビジネスの起業、環境系事業に関する相談など、これまでになかった拡がりを見せています。

#### ①相談窓口

期間	通年
場所	YCC 2階 ACYラウンジ
内容	創造の担い手の課題の解決に向けたアドバイス、調整等を行いました。ここで、集積した情報は各種事業にフィードバックされています。 <b>【相談件数 121 件】</b>

#### ②アートデータバンク

期間	通年
内容	前年度に引き続き、アーティスト、クリエイターの情報登録制度を実施。今年度はYCCと連動することで、登録者に企業とのマッチング機会など活動拡大につながる情報の提供を行ないました。 <b>【現在までの登録者数 約 80 件】</b>

#### (2) 助成事業

##### ①横浜市先駆的芸術活動助成

創造性にあふれた先駆的な芸術文化活動を対象とする助成。平成 21 年度は募集を 2 期制にし、よりタイムリーで利用しやすい仕様に変更しました。申請数も平成 19 年度 32 件、20 年度 67 件、21 年度 82 件と増加を続けており、確実に定着しつつある助成プログラムと言えます。

平成 21 年度の支援実績を概観すると、横浜を活動の原点とし国内外で活躍する実力のある芸術家が改めて横浜に向き合った活動や、横浜ならではの土地や場を活かした企画、創造都市

の取り組みにより環境整備が進んだことで若手の活動が実現し新しい若手人材の発掘・育成につながった企画等、横浜ならではの先駆的でサイトスペシフィックな企画が多く実現した年となりました。また、2年以上の継続的な助成交付を行った3事業については、内容や運営形態に深化が見られるなど、一過性ではない支援効果が実現しました。

なお、全ての助成対象事業について、事業終了後にヒヤリングを実施。活動者が抱える課題や支援のあり方に対する要望を踏まえて、次年度の助成プログラムの見直し及び改善につなげています。

■助成額：対象経費総額の2分の1以内で、一活動につき最大100万円以内

■助成実績：総助成額500万円、採択件数17件（申請数82件>前年67件）

#### 【交付事業】

■第1期
1. Marcos Fernades 『「空間を奏でる：建築物のための音楽」 Sounding the Space:Music for Architecture』 6月20日（土）／大倉山記念館
2. エクスプロージョン 白井美穂 『他者の形態 Unknown Binding』 6月17日（水）～8月12日（水）／BankART studio NYK
3. Responsive Environment 山代悟 『Mediascape@Yokohama』 10月17日（土）／象の鼻パーク内
4. ミズノオト・シアターカンパニーPLUS 平松れい子 『演劇公演：枝わかれの青い庭で～引用：ボレヘス著「トレーン、ウクハール、オルピス・テルティウス』(演劇) 4月17日（金）～19日（日）／横浜美術館レクチャーホール
5. BOAT PEOPLE Association 山崎博史 【継続交付2年目】 「YOKOHAMA Canal Cruise」（水際利用 アートプロジェクト） 8月～11月／横浜港および大岡川、掘割川
6. ミアカビデオアーカイブ 長谷川仁美 『コピーレフトとアートの抵抗か、戦略か』（シンポジウム） 6月26日（金）／創造空間9001
7. 森永泰弘 『CONCRETE vol. 2&vol. 3』（音楽イベント） 9月25日（金）、11月23日（月・祝）／東京藝術大学大学院映像研究科馬車道校舎／横浜国際映像祭

第 2 期
8. 中野成樹＋フランケンズ 『スピードの中身』(誤意訳演劇公演) 平成 22 年 3 月 13 日(土)、14 日(日) / 三溪園
9. 藤本隆行 『Time Lapse Plant/偽加速器』(インスタレーション製作・展示) 平成 21 年 12 月 25 日(金)～平成 22 年 1 月 11 日(月) / BankART Studio NYK
10. 野村誠 『老人ホーム RIMIX』 平成 22 年 3 月 14 日(日) / BankART Studio NYK
11. 寿オルタナティブ・ネットワーク(佐藤真理子)【継続交付 2 年目】 『KOTOBUKI クリエイティブアクション 2009』(寿町活性化をめざすアートプロジェクト) 平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月 / 横浜市寿町地区
12. 木ノ下歌舞伎(木ノ下裕一)『京都⇄横浜プロジェクト』(歌舞伎×演劇ワークショップ) 10 月 31 日(土)～11 月 2 日(月) / 急な坂スタジオ
13. 田多知子 『ジカンノハナ展』(浅井裕介と狩野哲郎による公開滞在制作) 11 月 6 日(金)～28 日(土) / 黄金町エリアマネジメントセンター
14. 岩淵貞太 『ダンスサイクル 2009-2010(ワークショップ)、「細胞の音楽」(新作公演)』 7 月～11 月(ワークショップ 8 回) / 急な坂スタジオ 平成 22 年 1 月 29 日(金)～31 日(日) / のげシャレ(横浜にぎわい座)
15. 小川武 『After the End(仮)』 *本事業については主催者の都合により事業実施の目処が立たず、保留となっています。
16. offsite Dance Project 【継続交付 2 年目】 『第 2 回ダンス・コミュニティ・フォーラム「We Dance」』(コンテンポラリーダンスフォーラム) 平成 22 年 2 月 13 日(土)、14 日(日) / 横浜市開港記念会館
17. チェルフィッチュ 岡田利規 『チェルフィッチュ新作公演「わたしたちは無傷な別人であるのか？」』 平成 22 年 2 月 14 日(日)～26 日(金) / ST スポット横浜 平成 22 年 3 月 1 日(月)～10 日(水) / 横浜美術館レクチャーホール

## ②アーティストを支援するプログラムのための助成

ACYのように横浜に集うアーティストやクリエイターの中間支援をおこなう団体・活動への助成。前年度と比較し、申請数は減少したものの、審査対象となる申請数は増加(20年度 7 件、21 年度 11 件)し、助成制度の内容が認知されるようになってきたといえます。また、今年度は助成金の財政支援に加え、事業を円滑に行うための人材の紹介や、助成対象者同士のネットワーク強化など、側面支援を行いました。昨年度から助成継続で 2 団体、新たに「機材の共有プログラム」を提案した 1 団体を対象として決定しました。

■助成額：一件最大 60 万円

■助成実績：総助成額 180 万円、採択件数 3 件(申請数 12 件<前年 21 件)

## 【交付事業】

主催／事業名	寿オルタナティブ・ネットワーク / 【継続交付2年目】 “寿町周辺地区でのアート活動を目的とした滞在支援システムづくり及び拠点整備”
内容	<p>アーティストやクリエイター、プロデューサーらによる文化芸術活動により街を活性化させることを目的として、活動拠点や各種催しなどの場づくりやネットワーキング活動を行なう。</p> <p>■活動を行なう際に有益な情報を効率的に収集できるウェブサービス「Yokohama Creative Map」の運用</p> <p>・マップを公開。関連コラム、ニュースの制作、スポットの追加など随時更新中</p> <p>■寿地区のスタジオ・レジデンス施設の運用および追加整備</p> <p>・試験運用を経て、長期スタジオ入居者募集中</p> <p>・寿オルタナティブ・スタジオを2室に、レジデンスを3棟に追加整備、利用者を募集中</p>
主催／事業名	河内晋平 / “アーティストの秘密基地プロジェクト” 【継続交付2年目】
内容	<p>アイデアがあるのに1人では実現出来なかったという、ものづくりに関わる人たちの為に、制作場所の提供や技術面のサポートなどを行い、「ものづくり」や「アーティスト」に関わるあらゆることを支援、プロデュースしている。</p> <p>■改装可能な賃貸アトリエの提供「場所組」</p> <p>・期間、費用等フレキシブルに対応。改修にも対応。新たな物件開拓中</p> <p>■制作テクニカルサポート「技術組」</p> <p>・漆、大工、金属加工、溶接など、制作をサポートする職人紹介窓口</p> <p>■機材のレンタル「機材組」</p> <p>・カメラなどの機材レンタルを行う</p>
主催／事業名	小泉明郎 森弘治 / “Artists' Guild” 【新規】
内容	<p>創作現場でのアーティストの経済負担を軽減させるために、それぞれの個人が現在所有する機材のデータベースを作成し、データベース上の機材を会員内でシェアできる共同体を構築。また、機材を共同で購入し、共有する。ワークショップも開催予定。本年度はビデオカメラを購入、会則を制定、内部で登録者を募り、試験運用を行った。</p> <p>今後はウェブを公開し、一般登録者を募集。ウェブにスポンサーシップを求める窓口や高価機材レンタル窓口を設置。ワークショップの開催も予定している。</p>

### (3) 講座・シンポジウム

アーティストやアート NPO の活動に役立つ「助成申請」「契約」などの実務系講座を開催。

#### ①助成金講座

日時	平成 21 年 9 月 28 日 (月) 19:00
会場	Y C C
内容	<p>“芸術文化活動に対する”助成金を申請したいけれど、そもそも助成金とはどういったものなのか、どのような助成金を選んだら良いのかなど、助成金を申請する際に出てくる疑問について考える講座。</p> <p>[講師] 喜多 爽(企業メセナ協議会プログラムオフィサー)</p> <p>■参加者 48 名</p>

## ②アートと法律講座

日時	平成 21 年 11 月 17 日（火）、11 月 24 日（火）、12 月 1 日（火）（全 3 回）
会場	Y C C
内容	<p>アーティストが作品を制作、発表する場合に関わる多くの権利や義務。それらを守るためにはどうすればいいのか。アートと法律についてアーティストの立場から取り組んできた講師とともに、正しい情報を知り、考える講座。</p> <p>[講師] 作田 知樹（Arts and Law 代表）</p> <p>■参加者全 3 回のべ 85 名</p>

## ③税金・会計講座

日時	平成 22 年 3 月 31 日（水）
会場	Y C C
内容	<p>今まで見落としがちだった税金や会計の基礎を学ぶ講座。アート活動と税金はどのように関係があるのか？行っている業務に税金はかかるのか？節税って、どうすればいいのか？など疑問に答える講座。</p> <p>[講師] 齋藤貴司、渡辺好史（東京地方税理士会横浜中央支部所属／ベイ・タックス税理士法人）</p>

## 事業方針〔2〕：創造産業集積のための仕組みづくり

### （1）助成事業

#### ①クリエイター・アーティストのための事務所等開設助成

平成 20 年度から A C Y に移管された助成ですが、申請数は年々増加し、2 年連続で申請総額が助成金予算額を上回りました。また、著名な作家、デザイナーの移転も増えてきています。これは、創造都市政策の効果により、横浜のブランドイメージが向上した効果であると考えています。特徴的なのは、東京を拠点としたグラフィックデザイナーから 3 件申請があり、横浜が創造産業従事者の選択肢に入ってきたことを示しています。

また、共同オフィスを民間で経営する事例も見られます。これは、北仲 Brick&White、本町ビル 45、ZAIM など、人材の集積が創造活動に寄与するものあることを確認できていますので、引き続き推奨する案件とします。今年度から始めた増床申請をされる方も複数いました。これは、横浜への誘致だけでなく、横浜からの流出を防ぐ目的で制度を改正したものです。このような積極的な事業者について、さらにサポートする必要性を感じています。

移転者にはヒヤリングを行い、市内で円滑に活動するためのフォローアップ、制度に対する課題の抽出を行います。

■助成額：一件最大 200 万円

■助成実績：総助成額 658 万円（予定）、採択件数 17 件（申請数 17 件/前年 14 件）

## 【交付事業】

事業者名	ジャンル
一級建築士事務所スタジオグリッド／小堀裕之	デザイン（建築）
㈱クワハタデザインオフィス／代表取締役 桑波田謙	デザイン（建築・インテリア）
株式会社ニデア／代表取締役 大澤浩一	デザイン（ランドスケープ）
和田円佳	デザイン（WEB、イラスト）
構造計画設計室中村由美子アトリエ／中村由美子	デザイン（建築）
株式会社コンテンポラリーズ／代表取締役 柳沢潤	デザイン（建築）
CURE 株式会社／飯村香里	デザイン（グラフィック）
株式会社西倉建築事務所／代表者 西倉潔	デザイン（建築）
鈴木理策	写真
高杉嵯知	美術
エス・ツー／S2 Design and Planning／代表者 杉浦榮	デザイン（建築）
株式会社空間都市建築研究所／代表取締役 岡田勲	デザイン（建築）
プロジェクト・レインボー／代表者 和久葉子	舞台芸術
有限会社天野和俊デザイン事務所／代表取締役 天野和俊	デザイン（グラフィック）
白井貴子	音楽
加賀田デザインオフィス／加賀田恭子	デザイン（グラフィック）
株式会社スリー・パワー・ユニット／代表取締役 山下弘治	デザイン（建築）

## ②企業による創造活動促進助成

平成 21 年度から A C Y に移管された当助成は、開港 150 周年にあわせた企業活動の展開を期待してスタートしました。結果、150 周年事業に直接関わるものは少なかったものの、将来を見据えた中長期的な新規事業の提案が多く見られ、150 周年が本来目指したコンセプトに適うものです。

注目すべきは、若手経営者による 2 つの地元ベンチャー企業からの新規提案です。これら 2 事業は、“横浜らしさ”をベースにした新たなブランド形成を狙ったもので、これまでにはないコミュニティの拡大が予想され、今後の街の活力として期待されます。また、長年横浜を支えてきた事業者からの積極的な提案もいただいています。また、東京の新進気鋭の映像系企業と横浜都心部にある専門学校（東京から移転）による共同提案の中で、桜木町駅前にオープンする複合商業施設と連携しながら、野毛地区の地域資源を発信する動きが現れています。東京資本による発信力あるメディア連携が横浜独自の地域資源と組んだ場合、どのような効果がでるか注目しています。

平成 22 年度は、さらなる新産業創出、コミュニティ形成、地域課題解決などを達成するために、NP0 や商店会、任意団体なども申請できる制度へと変更し、エリアを市域全体に拡大、地域資源を生かすことを必須とした制度に変更します。

■助成額：対象経費総額の 3 分の 1 以内で、一活動につき最大 300 万円

■助成実績：総助成額 739 万円（予定）、採択件数 8 件（申請数 15 件＝前年 15 件）



## 【交付事業】

第 1 期
<p>1. 株式会社鈴音 『横浜発「旅」必携のおススメアイテムのトータル・コーディネート』</p> <p>YBC（ヨコハマズベストコレクション）メンバー企業 28 社による「旅」関連商品の開発企画。横浜流旅商品ライフスタイルの発信を通じて、横浜のシティイメージを利用したあこがれのテーマブランド開発へ。</p> <p>実施時期：平成 21 年 5 月 27 日～6 月 2 日</p>
<p>2. 株式会社テレビ神奈川（株式会社ピー・アール・オー）『tvk 横濱フューチャーカフェ』</p> <p>「都市・横浜」におけるイノベーション推進、官民連携による政策形成の実践・検証、効率的な映像情報発信の実践的な研究を目的に、専門家や市民を交え講演・ディスカッション・交流会を開催。</p> <p>実施時期：平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月</p>
<p>3. 有限会社スタジオニプロール 『ニプロール・メイド・イン・ヨコハマ』</p> <p>次世代のヨコハマモード創出のために、全生産を横浜企業とする made in YOKOHAMA 表記のプロダクトの発信と、国際的なファッションフェアへの参加、イベント開催による地元黄金町の地域活性化を目指す。</p> <p>実施時期：平成 21 年 7 月～平成 22 年 4 月</p>
<p>4. 有限会社ラ・ギャラリーパリス（株式会社飯野）『“アートに出会う街横浜”プロジェクト』</p> <p>アーティストの作品流通が薄い横浜で、アーティストの創造力と地場産業技術のコラボレーションにより、製品開発・発表・新スタイルの模索、アートに出会える機会、新たな流通経路の確立を目指す。</p> <p>実施時期：平成 21 年 4 月～</p>
第 2 期
<p>1. 株式会社アマノスタジオ（株NDC グラフィックス、(有)アイトゥーン、ハッスル(株)) 『横濱万国橋博覧会』</p> <p>万国橋 SOKO 入居者によるプレゼンテーション。新港地区と馬車道を繋ぐ同拠点強化を目的で、高い質と発信力を備えた入居クリエイターの作品の発表や、民間主導で創造都市を考えるシンポジウム等を開催。</p> <p>実施時期：平成 21 年 9 月 21 日～22 日</p>
<p>2. 株式会社オー・エヌ・プランニング 『ヨコハマ・ピクニック・クラブ（YPC）設立』</p> <p>市内の事業者が連携して、ヨコハマ・ピクニッククラブ（YPC）発足。横浜らしい屋外空間を活用したピクニックモデルを提案。商品開発なども含めた活動で、経済活性化、コミュニケーションの活性化を図ります。</p> <p>実施時期：平成 21 年 9 月～平成 22 年 3 月</p>
<p>3. 有限会社クリオシティ 『濱バイク～Yokohama Urban Bike Dream～』</p> <p>「街乗り自転車シーンと横浜」をキーワードに、映像やアートの切り口を加えて、自転車を通じたコミュニティ形成を図ります。自転車デザイン関連産業の集積や、横浜発の自転車映像作品の商品化など、幅広い事業を展開します。</p> <p>実施時期：平成 21 年 10 月 31 日～11 月 1 日</p>
<p>4. (株)ディー・エル・イー 『BanchoJapon「動画クリエイター虎の穴 in 横浜・馬車道」事業』</p> <p>横浜から新たな映像クリエイターの発掘・育成・発信する事業。専門学校と映像企業が連携して、プロとしてのスキルと実績を身に着ける場を提供。自社の持つメディアやイベントで作品の発信を行う。</p> <p>実施時期：平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月</p>

(2) 芸術不動産モデル事業（長者町複合ビル）

アーティスト拠点形成のモデル事業づくりのため、不動産オーナーと協働して、ビル一棟にアーティストを募集するプロジェクトを実施。

主体	ACY、不動産オーナー、
期間	平成21年12月～平成22年3月
会場	第一田浦ビル
内容	築45年、457㎡RC4階建てのビル一棟の調査と入居者募集を実施中。これを通じて、民設民営の新たな創造拠点を生み出し、引いては、まちづくりにつなげます。

事業方針〔3〕：将来の担い手支援

(1) 若手・学生支援事業

① 「インターンの受け入れ」

実務実習を通じて創造都市への理解を深めてもらうと共に、将来のキャリア形成に対する意識を高めてもらうことを目的とし、創造界隈で行われる事業においてインターン生の受け入れを行いました。

受入事業①	横浜クリエイティブシティ国際会議2009
業務内容	国際会議制作補佐
期間	平成21年8月～9月／週3～4日程度
受け入れ人数	2名

受入事業②	関内外OPEN!
業務内容	関内OPEN!事業制作補佐
期間	平成21年8月24日～9月6日／週4日
受け入れ人数	8名

② 「卒展支援」

「多くの学生がアート活動する都心部」を目指して、美術系大学や卒業制作展の支援を行いました。都心部で1月～3月に開催される美大、専門学校の卒業制作展の集合ポスターによる広報協力を実施しました。本年度は新たに横浜市民ギャラリー、みなとみらいギャラリーの情報を載せ、ポスターを制作しました。

卒展2010ポスター	
内容	創造界隈拠点施設での美術系大学・専門学校の卒業制作展の情報の集合ポスター（B1サイズ）を制作。学校、会場やみなとみらい線構内等に掲出。 また、ACYホームページにも連動した卒展リンク集ページを設置。

## 事業方針〔4〕：海外の都市・拠点との連携

### (1) 創造都市横浜国際レジデンス事業

BankART1929 とは継続的な展開を行い、急な坂スタジオが助成金を取得して実施した事業については後方支援を行いました。また、YCC では、ZAIM 入居者であるアジアの現代アートネットワークを専門とする非営利組織をバックアップする形で実施。平成 21 年度は新たに韓国・仁川アートプラットフォームに横浜のアーティストを派遣しました。

#### ① 台北市・横浜市アーティスト交流プログラム

主体	BankART1929
期間	派遣：平成 21 年 12 月～平成 22 年 3 月末日/受け入れ：平成 22 年 2 月 7 日～4 月 30 日
会場	BankART Studio NYK
内容	台北派遣作家：井出賢嗣 3 ヶ月間台北国際芸術村に滞在、現地アーティストや市民との交流、創作。 来日作家：チョウ・ユーチェン 2 ヶ月間の滞在、市内のフィールドワークを通じた創作、発表。横浜在作家、ディレクター、市民との交流を積極的に展開。

#### ② 急な坂国際交流レジデンス Vol. 3

主体	急な坂スタジオ
期間	平成 21 年 5 月 31 日（日）～6 月 13 日（土）/11 月 25 日（水）～12 月 21 日（月）
会場	天王洲アイル～横浜みなとみらい地区（専用車両に乗車する移動型公演）
内容	来日作家：イェルク・カレンバウアー（ドイツ） Cargo Tokyo-Yohokohama の作品制作、発表。 「物流」をテーマに人々の記憶や思いを採集し、鋭くユーモラスなパフォーマンスに変換したドキュメンタリー演劇。観客はトラックの荷台を改造したトラックに乗り込み東京を出発。横浜まで、様々な演出を体験しながら港湾部を巡る。 出演者：青木ミルトン登、関口操、畑中力、サブリーナ・ヘルマイスター他 【参加者数：1,035 名】

#### ③ 北京市とのアーティスト・イン・レジデンス交流事業

主体	Far East Contemporaries
期間	平成 21 年 11 月 26 日（木）～平成 22 年 2 月 5 日（金）
会場	ZAIM、YCC
内容	来日作家：スン・シュン（北京） 3 ヶ月間の滞在、過去の作品を ZAIM にて発表。市内のフィールドワークを通じた創作、YCC にて発表。横浜在作家、ディレクター、市民との交流を積極的に展開。中国のキュレーターを招いて、アーティストトークを実施。今回制作した作品をあいちトリエンナーレ 2010 で展示されることが滞在中に決定する。 【来場者数：567 名】

#### ④ 仁川市とのアーティスト・イン・レジデンス交流事業

主体	アーツコミッション・ヨコハマ
期間	派遣：平成21年9月24日(木)～12月19日(土)、展覧会：平成22年2月10日(水)～15日(月)
会場	仁川アートプラットフォーム / YCC
内容	仁川派遣作家：藤井雷 3ヶ月間仁川アートプラットフォームに滞在、現地アーティストや市民との交流、創作。帰国の後、YCCにて成果発表展覧会(帰国後の新作発表会)。展示期間中、仁川アートプラットフォームのキュレーターを招いてのトークを実施。 <span style="float: right;">【来場者数：495名】</span>

#### 事業方針〔5〕：創造都市プロモーション

横浜が進める創造都市政策に対する市民理解の促進、創造界隈の認知度向上を目的に、冊子等の各種メディア制作やイベントの連携広報等をYCCと協働で行ないました。

①アート&カルチャー ヨコハマ マップ	
内容	情報更新による改定にあわせ、横浜を拠点とし英・Monocle誌など世界的に活動する橋本聡さんを表紙デザインに起用し、より幅広い層に親しみを持っていただける体裁としました。 <span style="float: right;">【発行部数：2万部/日英バイリンガル】</span>

②クリエイティブシティ・ヨコハマ紹介冊子『ヨコハマ・アートコンシェルジュ』	
内容	創造都市の取り組み成果を広くPRするための紹介冊子を制作。芸術文化に親しみの薄い市民層にも関心を持っていただき、気軽に足を運んでもらえるよう、実際に活動しているアーティストやクリエイターの顔が見える内容にするなど、分かりやすいスタイルを採用しました。 <span style="float: right;">【発行部数：1万部/日英バイリンガル】</span>

③アートウェブマガジン『ヨコハマ創造界隈』	
平成21年8月運営開始/隔月25日更新	
内容	クリエイティブシティや横浜のアートシーンの動きをより深く伝えることを目的とするウェブマガジン。第一線で活躍するアーティスト、プロデューサー、ディレクターなどによる記事やインタビューなど横浜で実際に活動する人材をより深くPRすることを目指しています。横浜に根ざしたもので、いわゆる情報ポータルサイトではない読み物を主体とするサイトとしては初めてのものだと考えています。

④創造界隈連携広報『横浜で、芸術まち歩き』	
実施時期：平成21年8月下旬～11月	
内容	クリエイティブシティ・ヨコハマ国際会議が開催された秋期にあわせ、創造界隈拠点及び横浜都心部で同時期に開催されるアートイベントを、各主体と連携しながら「横浜で芸術まち歩き」としての一体的な都市プロモーションを実施。 <span style="float: right;">【媒体：チラシ、ポスター、ウェブサイト】</span>

#### 事業方針〔6〕：平成22年度以降の新体制に向けた提言づくり

ACYが担当している「文化芸術」部門に加え、新たに「まちづくり」「産業振興」を中心的に担う組織の必要性等について横浜市に提案を行っていますが、体制に向けての提言には到っていません。

#### 6. ホームページ

ヨコハマ・アートナビのデータベースと連動し、創造界隈のアーティストを検索できるマップを公開しています。また、昨年度より取り組んでいるアーティスト情報を公開するACYアートデータバンクをデータベース化し、登録及び検索の利便性を向上させたサイトを平成22年度末に向けて公開予定です。

一方で、ACYの活動が3年目を迎え、コンテンツの大幅な増加がみられるため、より利用しやすいサイトへの改良及びバイリンガルへの移行が課題となっています。

【平成21年度閲覧実績 81,685 ページビュー（平成21年4月～平成22年2月）】